

C—62 枕の充填剤の研究

—頭圧と頭圧による枕の変形（くぼみ）について—

信州大教育 太田 久枝

1. 枕には、木製、陶器製、竹製などのように、頭部の与える圧力（頭圧と称す）によって変形しがたい材質もあり、頭圧によって、その形が容易に変わるものもある。さて、この変形（くぼみの程度）について、さきに実態調査を試みた際、中程度のくぼみをもつことを良し

とする回答が相当数あった。このくぼみの良さについては、人それぞれ、長い間馴れたねぐせ一般の、好みが大きく働いていると思われるが、くぼみ自体の大きさの課題には、さまざまな要因の関連において成り立つものと思われる。例へば敷ぶとんの性状、それに体をどのようによこたえ、その場合の接触状態はどうであるか、また枕の形状、内容物の種類、外被の大きさと内容物の割合、構成上の手技等々で、極限的にこれを論ずることは適切でないと思うが、今回一つの試みとして、次の方法で頭圧測定を行ない同時にくぼみについて検討を加えたその結果を發表する。

2. 看護用の水枕の片隅に径1cmの穴をあけ、透明ビニール管、50cmをとりつけたものに、2000ccの水を入れ空気を出し口をとじ、被験者の頭部をのせて、水高を考察する。また実験用枕を製作し、使用に際し塩化コバルトを用い、一方頭部計測も行なう。

3. 幼稚園4才児より老齡者にいたる結果をみるに年齢の進むに従って頭圧の大きくなってゆく様子を見た。その結果例えば小1男は、およそ水圧(頭圧) 1.27×10^4 ダイン/cm²、頭部接触13.0cm²、くぼみ3~4cm。